

記述式問題の出題推進に関する意見

益戸 正樹（UiPath 特別顧問、肥後銀行社外取締役
第10期中央教育審議会大学分科会臨時委員）

- 資料3の5ページの②に「ある程度大学界として足並みを揃える必要。私学の自主性を踏まえ一律の義務付けは行わないとしても、『入試で記述させる部分を少しでも増やしていく』という大きな方向性は合意すべき」との過去の委員意見が取り上げられているが、まったくその通りと考える。
- この点に関して、経団連と国公私の大学トップが直接対話を行った結果取りまとめられた「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」の報告書（2020年3月31日）をご紹介したい。この報告書においては、「Society 5.0の人材には、最終的な専門分野が文系・理系であることを問わず、身に付けるべき「リテラシー」の一つとして、「論理的文章表現力」を位置付けており、そのための教育は高等教育からではなく、初等中等教育段階から始める必要があるとされている。
- このような産学のトップの取りまとめを踏まえれば、高校教育においても、大学教育においても論理的な文章表現力の育成には一層力を入れていくべきであり、その間をつなぐ大学入試でも「書かせる問題をできるだけ増やしていこう」という程度の緩やかな合意はしておくべきではないか。このことは、日本の高等教育全体の教育研究のレベルを上げていくことにもつながるものと考えている。

【参考】採用と大学教育の未来に関する産学協議会報告書（2020年3月31日）（抄）

P6～7

Society 5.0の人材には、最終的な専門分野が文系・理系であることを問わず、リテラシー（数理的推論・データ分析力、論理的文章表現力、外国語コミュニケーション力など）、論理的思考力と規範的判断力、課題発見・解決能力、未来社会の構想・設計力、高度専門職に必要な知識・能力が求められ、これらを身に付けるためには、基盤となるリベラルアーツ教育が重要である。

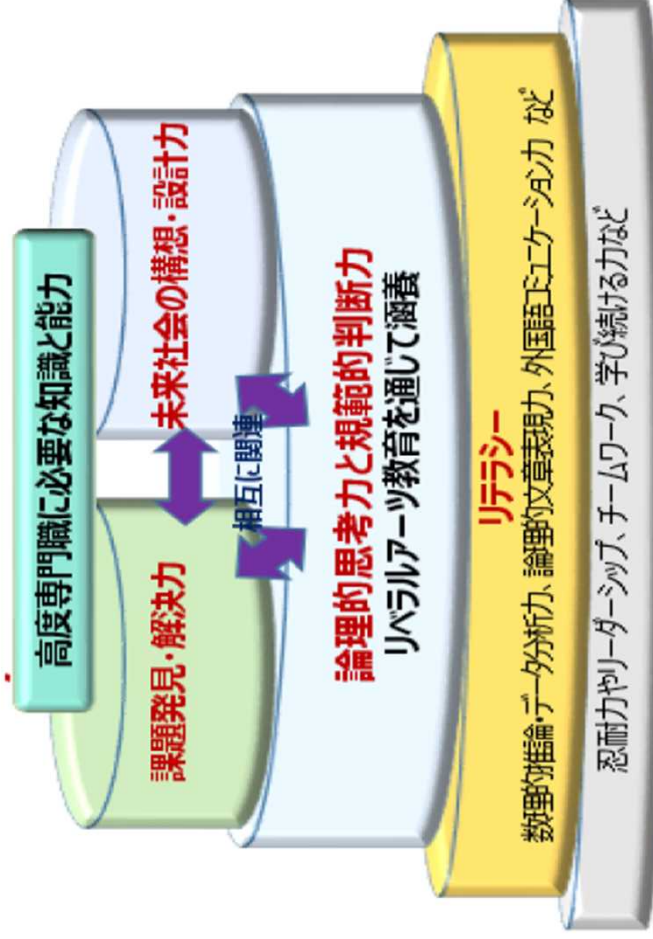
こうした能力の育成に向けて、各大学は既に、本年1月22日に公表された「教学マネジメント指針」などを踏まえ、学長のリーダーシップの下で、教学マネジメントの確立に取り組み始めている。またこれらの教育は、高等教育からではなく、初等中等教育段階から始める必要がある。

第Ⅱ章：Society 5.0で求められる大学教育と産学連携（抄）

1. Society 5.0で求められる人材と大学教育

産学協議会の「中間とりまとめ共同提言」で整理した通り、Society 5.0の人材には、最終的な専門分野が文系・理系であることを問わず、リテラシー（数理的推論・データ分析力、論理的推論・データ分析力、論理的文章表現力、外国語コミュニケーションなど）、論理的思考力と規範的判斷力、課題発見・解決能力、未来社会の構想・設計力、高度専門職に必要な知識・能力が求められ、これらを身に付けるためには、基盤となるリベラルアーツ教育が重要である【図表2】。

【図表2：Society 5.0に求められる人材の能力と大学教育】



- 最終的な専門分野が文系・理系であることを問わず、リテラシー（数理的推論・データ分析力、論理的文章表現力、外国語コミュニケーションなど）や論理的思考力と規範的判斷力をベースに社会システムを構想・設計する力が求められ、これらの能力を身につけるためには、基盤となるリベラルアーツ教育が必要
- こうした能力を育成するためには、初等中等教育から始めて大学院レベルまでの教育が必要
- 大学における社会人リカレント教育の拡充が必要

※本文中の下線は
文部科学省で付記

【出典】採用と大学教育の未来に関する産学協議会 報告書「Society 5.0に向けた大学教育と採用に関する考え方」（2020年3月31日）を基に文部科学省作成
 ※ 2019年1月31日、経団連と国公私の大卒トップが直接対話をする枠組みとして「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」が立ち上げられ、同年4月に「中間とりまとめ共同提言」を、2020年3月に報告書を公表。

※経団連側委員：会長、審議委員会議長、副会長、審議委員会副議長、経団連事務総長

大 学側委員：就職問題懇談会座長、国立大学協会会長・同顧問、日本私立大学団体連合会会長・同代議員、公立大学協会会長（ほか）